

宝塚市安倉上池のトンボ

新家 勝

I はじめに

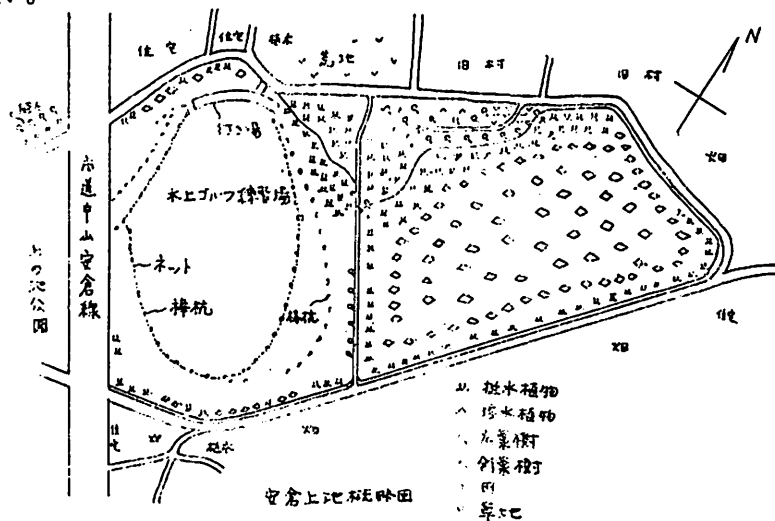
宝塚市安倉上池は、阪急電鉄中山駅の南方約2 km、安倉北四丁目にある大きな池である。市街地に接しているながらも、豊かな自然環境に恵まれ、多くのトンボがみられる。1984年には多くのウチワヤンマやアオヤンマを、1985年にはオオヤマトンボを見ることができたので、この池のトンボのスライド作りを思い立った。スライドは未完成であるが、1986年に観察したトンボについて報告させていただく。

II 観察結果

1 環境

池は、市街地と農業地域が接する所にあり、北側に一部が新興住宅と接し、一部は森や草地を介して旧村と接している。南側から東側にかけては、堤防を境に田、畑、植木畑などと接しており、こちら側は昔からの自然環境が、ほぼそのまま残されている。西側は、幅員15mの市道中山安倉線を境として、大部分が上の池公園、極く一部が田や植木畑と接している。

池は、周囲約14,000m(市域図から推定)、東西に長く、ほぼ中央を南北に走る通路で二分されており、それぞれ池に降った雨水のほかポンプ場で汲み上げた地下水を溜めている。近くを流れる天王寺川とも水路でつながっているが、川の増水時に水門をあけたときだけ川水が流れ込む。なお、住宅からの下水や田畑からの落し水の流入はないので、生活廃水や農薬の流入による汚染は、まず考えられない。



池の岸は、西岸が鋼鉄製型材の打込みによる護岸になっているほか、北岸の愛宕山神社の森の部分を除き、すべてコンクリート護岸になっている。ただし、南岸は上面の道路とコンクリート護岸との間に地肌の部分があり、雑草が生えている。

護岸の内側は、東岸側の一部及び西岸側の大部分は何も生えていないが、その他の部分には、大木、ヨシ、ガマ、マコモなど背の高い挺水植物が生えている。これらが途切れたところには、ガガブタ、ヒシなどの浮水植物や、一部にはイの仲間など背の低い挺水植物が生えている。東側の池、西側の池とも北岸側にヨシ、ガマ、マコモの単純又は混生の群落があり、東側の池では愛宕山神社の森と接している。また、東側の池は、夏期に浮水植物であるヒシが繁茂し、それらに混って所々に奇怪なオニバスが生える。西側の池は、水上ゴルフ練習場として利用されているため、ゴルフボール回収の妨げとなるヒシは駆除されており、殆んど見当たらない。

東側の池の北側の一部は、池面から5m程高く、台地になっており、赤い鳥居と古びた祠が一つだけの小さな神社が建っている。これが、愛宕山神社で、東西に延びる参道の両側と神社の西側は、植生の豊かな森になっている。一部伐採されているが、クロマツ、クス、ヤブセニッケイ、クロガネモチ、ナナミノキ、アラガシ、アベマキ、アオギソ、センダン、アカメガシワ、サクラなどの高木が生え、その裾には、ヤブツバキ、シャシャンボ、モチツツジ、ナワシログミ、トベラなどの低木やネザサがはえている。また、蔓性植物であるアケビやサネカズラが、所々でこれらの木々からみついている。森の東側の北面は、ススキ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、ヨモギ、クズなどが繁茂する小さな草地になっている。

その他、西側の池にはゴルフ練習場の足場やネットを張るための棒杭が多数あり、東側の池には倒木がはまっている。

2. 観察したトンボ

(1) Agrionidae イトトンボ科

a. *Ischnura asiatica* Brauer アジアイトトンボ

VII. 25. 1986に目撃、VIII. 2.♂1986に1♂採集。

いずれも南岸の護岸と道路との間の草むらにいたもので、この池では余り見られない。

b. *Cercion calamorum* Ris クロイトトンボ

V. 31.1986, VI.15.1986, VI. 21.1986, VII.6.1986, VII.13.1986, VIII.16.1986, IX.21.1986に目撃。

5月から9月にかけてヒシやガガブタの葉上で普通に見られる。未熟虫は愛宕山神社の森の林縁でよく見られる。

c. *Cercion hieroglyphicum* Brauer セスジイトトンボ

V. 1.1986, VI.15.1986, VI.21.1986, VI.22.1986, VII.19.1986, VII.25.1986, VIII.14.1987, VIII.

16.1986, VIII.23.1986, IX.6.1.1986, IX.7.1986, IX.21.1986に目撃。

この池では最も多いイトトンボで、ヒシ、カガブタの葉上や周囲の草むらヨシなどの葉上でよく見られる。未熟虫は前種同様、愛宕山神社の森の林縁でよく見られる。

(2) *Platycnemididae* モノサシトンボ科

a. *Copera annulata* Selys モノサシトンボ

VI.15.1985, VI.16.1985, V.31.1986, VI.15.1986, VI.21.1986, VI.22.1986, VII.6.1986, VII.19.1986, VII.25.1986, VIII.11.1986, VIII.23.1986, IX.7.1986に目撃。

水際に草やヨシ、マコモなどの葉上によくいるが、ヒシなど浮水植物の葉上にはない。未熟虫は愛宕山神社の森の日陰に多い。

(3) *Gomphidae* サナエトンボ科

a. *Ictinus clavatus* Fabricius ウチワヤンマ

本誌第13巻第2号で報告済。1985年から1986年についても6月下旬から8月中旬にかけて、棒杭、倒木の枝、水辺に突き出た立木の枝、ヨシの枯穂などの先によくとまっていた。

(4) *Aeschnidae* ヤンマ科

a. *Aeschnophlebia longistigma* Selys アオヤンマ

本誌第13巻第2号で報告済。1985年から1986年についても6月中旬から7月下旬にかけて、ヨシ、マコモの間をよく飛んでいた。

b. *Anax parthenope julius* Brauer ギンヤンマ

VII.14.1985, VII.19.1986, VIII.2.1986, VIII.14.1986, VIII.23.1986, IX.6.1986, IX.7.1986, IX.14.1986に目撃。VI.22.1986羽化殻1体を採集。

最もありふれたヤンマであるが、この池ではアオヤンマより少ない。池の片隅を時々、徘徊しているが、しばらくするといなくなってしまう。羽化殻の採集例からみて、発生していることは確実である。

(5) *Cordulegasteridae* オニヤンマ科

a. *Anotogaster sieboldii* Selys オニヤンマ

IX.6.1986, IX.14.1986に目撃。いずれも池を通過しただけであった。

(6) *Corduriidae* エゾトンボ科

a. *Somatochlora viridiaenea atrovirens* Selys オオエゾトンボ

VIII.30.1986に池の西側を通る市道中山安倉線沿いで1♂を目撃し、確認のため捕獲した。ここは植木畑に面した小さな田であり、本種がよく見られる山間部の湿地とよく似ている。移動中に立ち寄り、しばらく滞在していたのであろう。

(7) *Macromiidae* ヤマトンボ科

a. *Ephthalma elegans* Brauer オオヤマトンボ

VI.15.1985目撃、VI.16.1985排水口に近い浅瀬で産卵する1♀を目撃、VI.22.1985棒杭に付着した羽化殻を目撃・撮影、VI.30.1985目撃、VII.14.19851♂を採集、VII.20.1985目撃、VI.7.1986棒杭に付着した羽化殻を目撃、VI.8.1986目撃、VI.15.1986交尾を目撃、VI.21.1986ポンプ場近くの浅瀬で産卵する1♀を目撃、VI.22.1986キショウブに付着した羽化殻を採集、VII.6.1986棒杭に付着した多数の羽化殻を目撃、VII.19.1986、VII.20.1986、VII.25.1986、VIII.2.1986、VIII.11.1986、VIII.14.1986、VIII.16.1986、VIII.30.1986目撃、IX.6.1986曇天時ヨシの軸にぶらさがるように静止している1♂を目撃・撮影、IX.7.1986、IX.14.1986に目撃。

上記中、単に「目撃」とあるのは、いずれも♂のパトロールで、6月上旬から9月中旬までの間、晴天で風がなければかならずみられた。最も個体数が多いのは6月中旬から7月中旬で、右回りのものと左回りのものが、度々、鉢合わせする。

(8) *Libellulidae* トンボ科

a. *Orthetrum albistylum speciosum* Uhler シオカラトンボ

V.17.1986、VI.22.1986、VII.12.1986、VII.13.1986、VII.19.1986、VII.20.1986、VII.25.1986、VIII.2.1986、VIII.14.1986、VIII.16.1986、VIII.23.1986、VIII.30.1986、IX.14.1986に目撃。

5月中旬から9月中旬にかけて普通に見られる。

b. *Deielia phaon* Selys コフキトンボ

VII.7.1984採集、VI.23.1984、VI.30.1984、VI.16.1985、VI.30.1985、VI.15.1986、VI.21.1986、VI.22.1986、VII.6.1986、VII.12.1986、VII.13.1986、VII.19.1986、VII.20.1986、VII.25.1986、VIII.2.1986、VIII.11.1986、VIII.14.1986、VIII.16.1986、IX.6.1986に目撃。

池から移動する様子はなく、6月中旬から9月上旬にかけて殆んどいつでも見られる。ただし、8月下旬以降は個体数が減るので見られないこともある。大体は水際にいるが、VI.22.1986に目撃したものは高さ約3mのヤナギの枝先に静止していた。

c. *Crocthemis servilia* Drury ショウジョウトンボ

VIII.14.1986、VIII.16.1986、IX.6.1986に目撃。

d. *Sympetrum dawinianum* Selys ナツアカネ

X.3.1986、X.10.1986に目撃。

e. *Pseudothemis zonata* Burmeister コシアキトンボ

VI.30.1985、V.31.1986、VI.15.1986、VI.21.1986、VI.22.1986、VII.6.1986、VII.12.1986、VII.13.1986、VII.20.1986、VII.25.1986、VIII.2.1986、VIII.11.1986に目撃。

6月中旬から8月中旬にかけて、いつでも見られる。ただし、6月頃は愛宕山神社の森に
ることが多い。

f. *Rhyothemis fuliginosa* Selys チョウトンボ

VI.23.1984, VI.30.1984, VI.15.1986, VI.21.1986, VII.6.1986, VII.19.1986, VII.25.1986, VIII.
2.1986, VIII.14.1986, VIII.16.1986, VIII.23.1986, IX.6.1986 に目撃。

6月中旬から9月初旬にかけていつでも見られる。6月頃は愛宕山神社の森の東側にある草
地によく静止している。8月の中旬、♂がヨシなどの穂先にとまって♀を待っている。♀が現
れると、追いかけて交尾する。しばらく交尾したまま飛び、離れると♀はヒシの間の水面に産
卵し、♂は前と同じように次の♀を待つ。

g. *Pantala flavescens* Fabricius ウ斯巴キトンボ

7月初旬から、草地や付近の路上を飛んでいる。目撃日の記録がないのは、カメラで追うこ
とがむずかしいためだろうか。

III まとめ

宝塚市の安倉から中山付近、山本、それに伊丹市にかけて、大きな野池が多い。安倉上池を始め安
倉中池、安倉下池、西野池、谷池、菰池、真池、辻ヶ池、皿池、八幡池、淵池、菱池、新池、それに
伊丹市の荒牧池、黒池、西池、カモで有名な昆陽池や瑞ヶ池など数えればきりが無い。そして、どの
池でもトンボの姿は見られるが、安倉上池ほど多種のトンボがみられる池はない。

理由はいろいろ考えられるが、第一には生活廃水や農薬による汚染がないことであろう。しかしな
がら、かならずしも水がきれいなわけではない。ヒシが立枯れる10月、水の色は薄黒く変色し、すざ
ましい腐敗臭が池面に漂う。このようなことは、ヒシが繁茂する池に共通しているが、一過性のもの
であり、幼虫の死活に大きな影響はないようである。

次に、変な表現であるが、池が十分に整備されていないことであろう。最近、多くの池で、護岸の
コンクリート化などの整備工事が進められており、底までコンクリート化されることはないにしても、
堆積した土や泥とともにヨシ、マコモなどの植物さえ除去されてしまう。ご多聞に漏れず、安倉上池
の護岸もすでにコンクリート化又は鋼鉄化されているが、その後かなりの年月の間、手入れされてい
ないので、工事の際に損われた植生が回復しており、元々手をつけられなかった部分と相まじって豊
かな植生をなしている。また、手入れが行き届いていないため、一部には土砂が堆積して、不要な
棒杭や倒木も放置されている。そして、これらの複雑な環境を利用して、多くトンボが住み分け、羽
化の足場や産卵の場所としている。棒杭や倒木の先、穂が枯れ落ちたヨシの先には、ウチワヤマガ
が陣取る。ヨシやマコモの群落を縫うようにアオヤンマガが飛ぶ。水際のヨシやマコモの穂先や背の高い葉
先には、チョウトンボが羽根を休め、比較的低いところでは、コフキトンボ、コシアキトンボ、ショ

ウジョウトンボ、モノサシトンボが獲物を待つ。また、ヒシヤガガブタの葉上には、セスジイトンボやクロイトンボ、が縄張りを作る。

また、池の北側の森や草地が、未熟虫の時期を過ごす絶好の場所になっている。セスジイトンボ、クロイトンボ、モノサシトンボ、コシアキトンボの多くは、未熟虫の時期に過し、やがて林上を飛ぶ。しかし、殺し屋シオヤアブも結構多い。

更にまた、池が大きいと、大きな池を好むオオヤマトンボが住み付く。

以上、紹介したトンボはすべて普通種であり、生態もありふれたものだが、年月日のデータと環境についての記載がかなり詳しいので、例えば10年後に同様の観察をして比較して見れば、環境とファウナの推移がよくわかるのではないかと思う。

なお、最後になりましたが、トンボの同定と生態について、いろいろとご教示いただきました関西トンボ談話会の井上 清氏に厚く御礼申し上げます。

IV 参考文献

1. 宝塚のトンぼ 宝塚市教育委員会、1982
2. 近畿のトンボ 関西トンボ談話会、1984
3. 原色昆虫大図鑑Ⅲ 北隆館
4. 市域図 宝塚市

カトリヤンマの産卵観察例

田 中 稔

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* BARTENEF は、西宮市では最も普通のヤンマであるが、私は、今回初めて産卵を観察したのでその報告をする。

1986年9月7日の夕方5時半頃に、西宮市上ヶ原山田町の湿地の中のB湿地（本誌第14巻第1号、西宮市上ヶ原山田町のトンボ）を、犬と散歩がてらトンボの観察巡回中に足元より5～6匹のカトリヤンマが一斉にバサバサと飛び立ち地上1m位にホバーリングをした。5分程待ったがホバーリングを続けているため、10分程その場をはなれて戻ってみるとやはり産卵をしていた。湿地の水は完全に